

# わたしの聖戦

◎◎女性が働くことについて◎◎29

医学博士・医学ジャーナリスト

植田美津江

## ねこ学のすすめ

「猫派犬派」という言葉がある。

ペットの代表格である猫と犬、どちらが好きかという意味で使われることが多い。よくこのように対比されるものの、両者はあくまで似て非なる動物だと私は思っている。どちらもペットとして家庭で飼うには最も適した動物で、他には鳥やうさぎ、亀が一般的である。最近ではペットも多様化し、蛇やイグアナなどの爬虫類を好む人もいるが、それらはあくまで少数派で、何とんでも猫と犬こそがペットの王道だろう。

並べて評価される機会が多いが、猫と犬は決定的に違う。いうまでもなく猫は悪くいえば自分中心、ほめる表現としては「媚（こ）びない」、あるいは「気高い」といわれる。逆に犬は従順で人間の言うことをよく聞く、いわゆる主従関係が成立するところがウケている。「飼われる」のはもっぱら犬で、猫は自由な存在だというイメージも強い。一昔前は野良犬も目にしたが、今ではほとんど見かけない。野良犬の存在は、国や治安の不安定さ、衛生度の低さを表しているようで嫌われる

傾向があるが、反面野良猫はどこにでもいて、しかもそこそこ皆に可愛がられている。犬には常に流行があり、血統書付きとか人気のある種類の登場で話題になることがたびたびあって、何だかうつとおしい。今

には、人間によるその種の偏向がほとんどなく、猫好きは野良でもヘンテコな模様でも不細工でも区別なく愛情を寄せらる。猫には、黒猫にまつわる縁起話や化け猫にみられるように、よくも悪くも神秘的な要素が濃い。すこぶる頭が悪いかと思えば、本当は何もかもわかっているんじゃないかと思わせるところがあつまる。つまるどころ両者の違いは、犬はひたすら人間主導であるの

## 猫の孤高さは…



は大型犬より小型犬、日本型の犬より輸入型の犬のほうに人気が集まっているようだ。時々、はやりの犬に服を着せて散歩させているのを目にすると、ちよつとうんざりする。一方猫

に対し、猫はいつでも猫自身が主役であり、人間は脇役に甘んじなければならぬということだろう。コミュニケーションツールの多様化が進み、多くの人はいつでも誰かと

つながっている状態を好むようになった。なぜか孤独な時間を極端に恐れ、ひとりである楽しさを満喫できない時代である。そんな依存体質の強い人間からみれば、猫の孤高さは時にうらやましく思えるかもしれない。

知人の男性は、女性関係で悩んでいるとき、あつる人から猫を飼うように勧められた。もともと猫など好きでも何でもなかったが、言われるままに2年間猫を飼って見たところ、結果、女性と猫は大変よく似ていることがわかり、女性理解が深まったそうである。その極意とは、すなわち「猫も女性も自分の思い通りにならない」ということであり、猫と暮らした2年間は、彼に忍耐というものを身につけさせるに成功した貴重な時間であったといい、今でも猫に感謝していると口にしてはばからない。

イラスト・三浦義雄